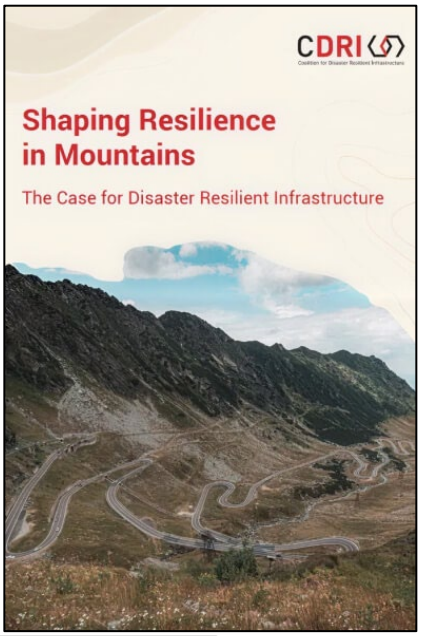
TOHOKU UNIVERSITY IRIDeS
東北大学災害科学国際研究所

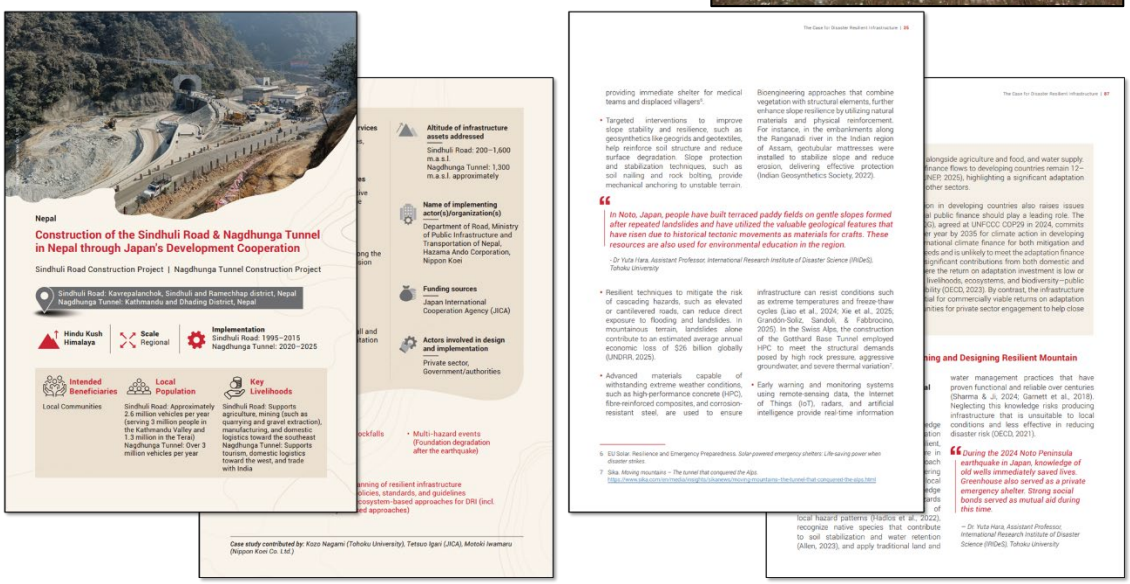
CDRI、UNU-EHS による山岳地域の災害レジリエンスに関するグローバルレポートの刊行に協力しました（2025/11/14）

テーマ：災害レジリエンス、山岳地域、山間地、国際防災、国連気候変動枠組条約 COP30
ＵＲＬ：https://cdri.world/shaping-resilience-in-mountains/

国連気候変動枠組条約第 30 回締約国会議（COP 30）に合わせて、山岳地域の災害レジリエンスに関する新たなグローバルレポート『Shaping Resilience in Mountains: The Case for Disaster Resilient Infrastructure』が、災害レジリエントなインフラに関するコアリション（政府連合）（CDRI：The Coalition for Disaster Resilient Infrastructure）から刊行されました。

Lead author を国連大学環境・人間の安全保障研究所（UNU Institute for Environment and Human Security）グローバル山岳安全研究プログラム（GLOMOS）の Lina Rodriguez 研究員、Stefan Schneiderbauer 博士（Head of GLOMOS Division）が務め、本学から永見光三特任教授（2030 国際防災アジェンダ推進オフィス、本務：グリーン未来創造機構）、原裕太助教（2030 国際防災アジェンダ推進オフィス）が 24 名の Contributions member の一人として貢献しました。特に下記のページでは、ネパールでの日本政府の資金協力によるシンズリ道路建設を通じた長年の技術移転・人材育成が、地震被害からの迅速な復旧も経て、同国初の道路トンネル建設協力につながった事例（永見特任教授）や、能登の里山里海の暮らしと令和 6 年能登半島地震の知見（原助教）が、名前を添えて紹介されています。本レポートは、上記サイトから無料でダウンロードできます。





永見特任教授ら（左）と原助教（右）の知見・コメントが収録されているページ

文責：永見光三、原 裕太（2030 国際防災アジェンダ推進オフィス）